歴史文化遺産の
保存・活用に関する
地域円卓会議

うるま市の歴史文化遺産をもっと活用するために
必要な連携について考えながら、
活用が実現した先の地域のメリットや課題を共有する

実施報告書

日　　時：　2025 年 2 月 14 日（金）18:30-21:30（受付開始 18:00-）
場　　所：　うるマルシェ会議室 うるま市民食堂 2F（沖縄県うるま市字前原 183－2）
主　　催：　うるま市教育委員会
協　　力：　公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO 法人まちなか研究所わくわく

令和６年度文化庁文化芸術振興費補助金
（地域文化財総合活用推進事業）

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

【報告】歴史文化遺産の保存・活用に関する地域円卓会議

■日　　時：2025 年 2 月 14 日（金）18:30-21:30
■場　　所：うるマルシェ会議室　うるま市民食堂 2F
■着席者数：8 名（論点提供者、司会、記録者含む）
■参加者数：79 名（自治会等地域組織、教育機関、行政等）
■主　　催：うるま市教育委員会
■協　　力：公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO 法人まちなか研究所わくわく

論点提供　川端　登　（うるま市社会教育部　部長）

うるま市の歴史文化遺産をもっと活用するために必要な連携について考えながら、活用が実現した先の地域のメリットや課題を共有する

うるま市では、これまで歴史文化遺産の保存と活用に関する議論を進めてきました。しかし、近年の少子高齢化の中、文化財の保存に関して、優先順位をつけながら施策を進めていくことの困難さを抱えています。困難さは、人材・施設のメンテナンスや管理・調査・データベース整備・継承・啓発等様々なジャンルにわたって山積しているのです。今回の円卓会議では、現状の課題を紹介しながらも、活用がうまく行った際の地域へのメリットの波及も共有し、連携してこの課題を解決することの意義と方向性をみんなで議論します。

センターメンバー

川端　登
うるま市
社会教育部
部長

岸本　力
うるま市
経済産業部
部長

大川　豊治
うるま市石川
中央区自治会
会長

石川　優子
地域団体 SU-TE
あごーりば食堂

星　明彦
沖縄総合事務局
運輸部長併任
沖縄総合観光施策
推進室長

上杉　和央
京都府立大学
准教授

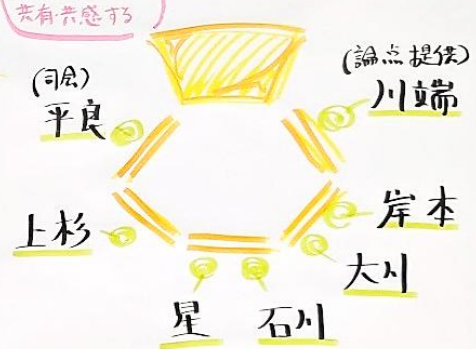
＜板書記録＞

歴史文化遺産の保存・活用に関する地域円卓会議

①

2025.2.14(金)
18:30-21:30
@うるマルシェ 会議室

地域の困りごとを社会課題として共有・共感する



うるま市の歴史文化遺産をもっと活用するために必要な連携について考えながら、活用が実現した先の地域のメリットや課題を共有する

主催 うるま市教育委員会　協力 (公財)みらいファンド沖縄, NPO法人 まちなか研究所わくわく

論点提供

川端登さん
うるま市教育委員会 社会教育部

歴史文化遺産の保存と活用

うるま市文化財保存活用地域計画

R.6.7月 文化庁認定

59件指定
国・県・市
3,270件 未指定

① 海の邦として活躍するまち
② グスクと村落の形成のまち
③ 歌と芸能を生み出すまち
④ 戦後復興発祥のまち

②

勝連城跡　安慶名城跡
平敷屋製糖工場跡　仲原遺跡
チャーン　伊波メンサー織道具一式
村獅子　サングのチャー　具志川グスク
獅子舞　石川地区避難民収容所(1945)　壕　RS.8.9指定
天願橋(未指定)　ウスデーク

文化財の指定 ⇒ 所有者からの申請
調査

歴史文化遺産 ⇒ 地域資源として価値創造

現状・様々

地域 ⇒ 伝承したい思い、担い手の課題

未来志向へ　魅力向上, 経済の好循環へ

価値の両立　保存・継承　すべてを行政が担うことは困難

文化財　地域資源　食文化/古民家/景観

岸本力さん

うるま市経済産業部

③

2020.1 ダイニングアウト　2日間

勝連城　ごうかなしストラン

地元の飲食へのしげき

他でできない体験

1泊20数万円（1食15万円）

2021.1

勝連城フェス

子どもたち活躍

コロナ禍→屋外で安全にできるイベント

サウナイベント

ミスマッチなくみあわせ

経済×文化財（課、守る）

保存活用の指針（ガイドライン）勝連城

尊厳 リスペクト

連勝スポット

勝負ごとの縁かつぎ

演舞武→ほまれ　舞台コスト

エイサー　担い手不足

団体数へった ⇒ 6団体へ

県外ハケン事業（R.5）

モチベーションup

11団体へ増

伝統エイサープロモーション

市のためにできることあるのでは、青年の皆さん

まちなかでみちじゅねー

経済効果

闘牛　R4 観光闘牛

文化を生かした商財

850万人 → 190万人（うるま市）観光客

17000円 → 3000円 消費額

0.6泊 宿泊数（ホテルとの連動）

勝連城を起点に周遊するためのコンテンツづくり / 食文化

大川豊治（とよはる）さん

うるま市石川中央区自治会 会長

2001 いひちゃー青年エイサーまつり 創設

19回大会まで開催　エイサーのほりおこし

19歳 りんけんバンドへ加入

足元の宝物に気づく経験

ペルーへ、ことばを学ぼう！ 地域ほりおこし

笑顔に

文化財　空気にふれさせて、まぜる。

エイサーに注目する青年へっている

青年会のつくり方・ブームがある・地元にこだわりうすくなって

部落会 自治会 連携大事　SNS発信

建物・年中の行事　「ごさまる」も

場 キャスティング 面白さ 担い手増へ

ひろうする場が増えること、1ヶ所だと同じ人になってしまう。

石川優子さん

④

地域団体 SU-TE あごーりば食堂

伊計島 3ートイベントで1ヶ月すごす。

今やっていること

「あごーりば」　どうぞおめしあがりください　宮城島だけのことば

「スーテー」みんなそろって　2019年3月でスタート

1年半かけて空き家改修し食堂オープン

50人かかわって。

土曜日のみオープン　ボランティアスタッフ

地域食堂・子ども食堂　ティガネーマン

ビーチクリーン活動　活用する人でてきた

島のリビングのような場

深い関わりある人たち

人にすいよせられて

このコミュニティに

いたいと思った

移住者多い

人（ちえ）大事

⑤

星 明彦さん
沖縄総合事務局

文化の構造
生業の機能

大切なもの
自分は何者か
アイデンティティ
世界へ発信

地域とは
マーケティングのモデルかわった
セイリエンス　独自性

文化
経済　観光
好循環

人間中心的
(経済)
資源 < 環境 < 自然

潜在的
(文化)

財
みんなの間にあって
大切なものを感じさせてくれるもの
あらゆるものが文化財
私たちをかたちづくるもの

つねに新しいものをつくりつづける。アップデートしつづける

上杉和央さん
京都府立大学

歴史・文化をいかした まちづくり
足元の宝物　発信すること
部落事務所 (ムラヤー+練習) ユニークベニュー
島のリビング / 人が集まる
全体が家
本来の価値につけ加えて活用する
住まう価値 − 沖縄の価値

⑥

サブセッション

住んでいる人
とくべつ感ない

光をあてるためには
どうしたら

勝連城
市外の宿泊
経済につながりうすい

天願橋
おちないはし
合格キガン

映画に出る
ロケ地として使われている

その先のこと
知られてない

天願城跡
キャンプコーナー

フィルムオフィスをつくったら
窓口

草かり
地域との連携
自治会とタイアップ

周辺案内MAP
ほしい

ししまいフェス
中止

継承
アイデンティティ

保存会
高齢化
亡くなってく

発展
ガイドブック

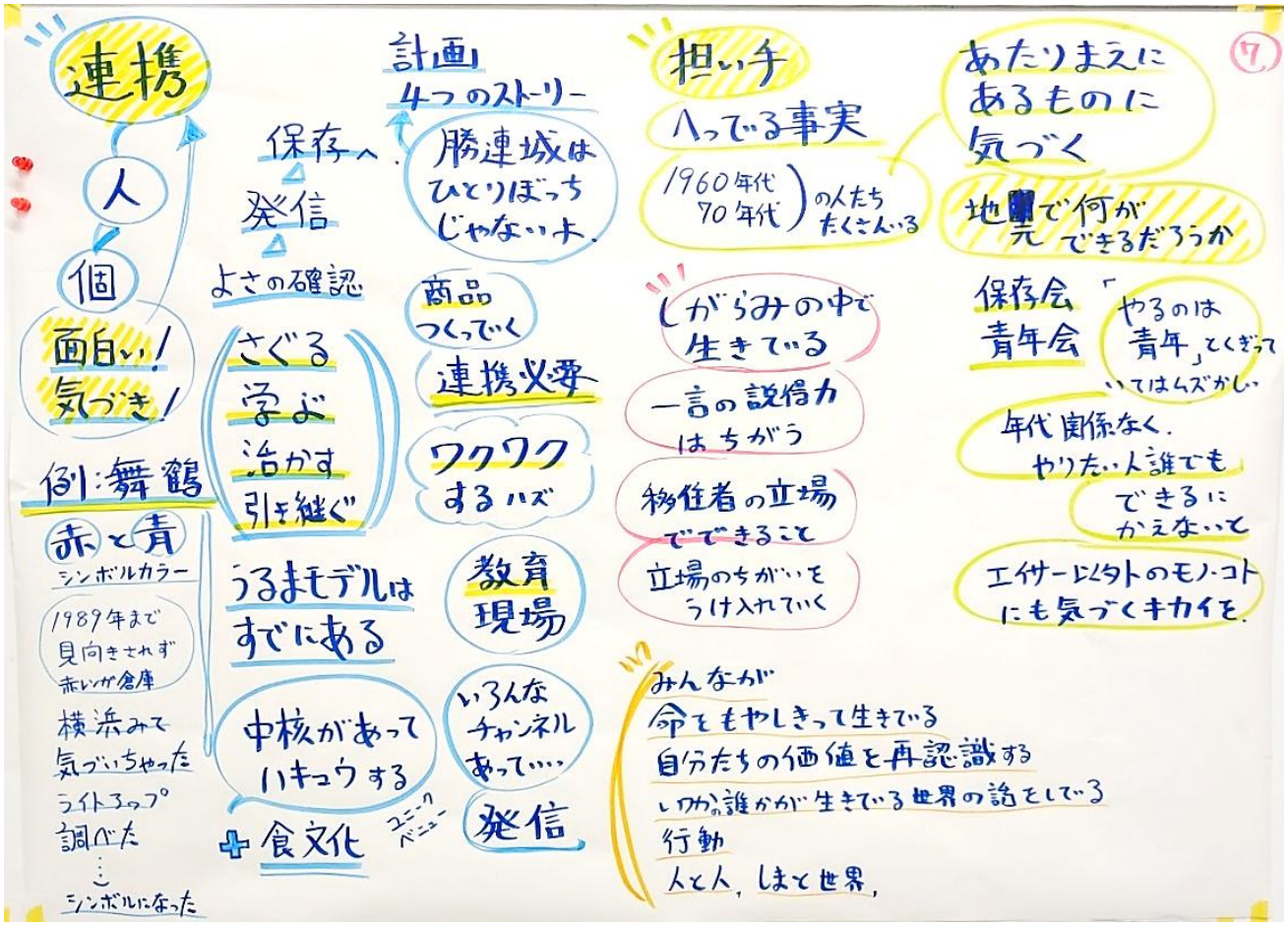
パンフ多すぎて
何をわたしたら…

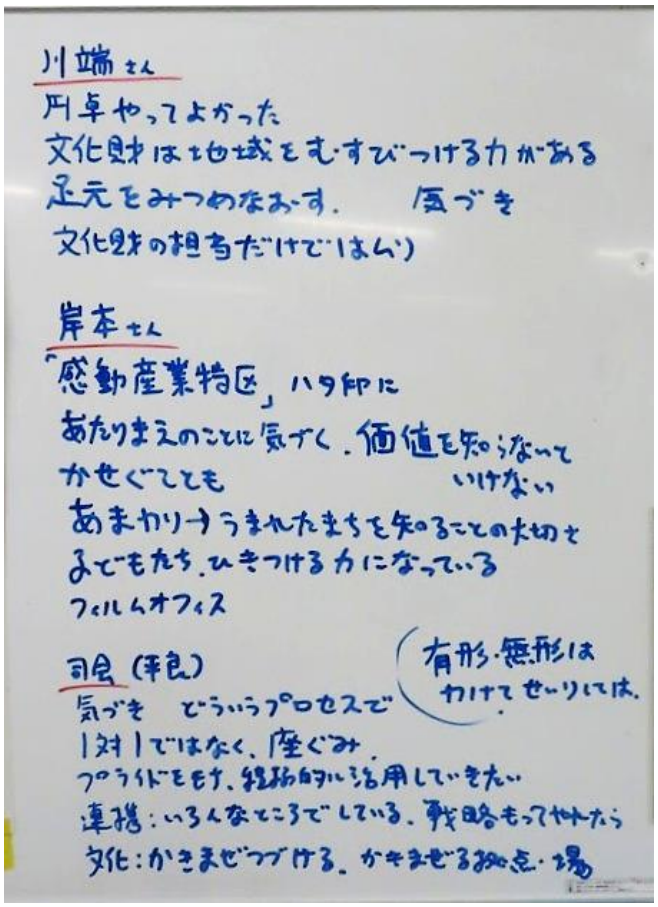
駐車場
ないことで
断念

ハード面
整備

へしきゃ
エイサー
東西が1つになってしまった

どうしたら後世までつづけられるか





川端さん
円卓やってよかった
文化財は地域をむすびつける力がある
足元をみつめなおす。　気づき
文化財の担当だけではない

岸本さん
「感動産業特区」ハタ印に
あたりまえのことに気づく。価値を知らないといけない
かせぐことも
あまり→うまれたまちを知ることの大切さ
子どもたち。ひきつける力になっている
フィルムオフィス

司会（平良）
気づき　どういうプロセスで
1対1ではなく、座ぐみ。
プラットフォームを作、経済的に活用してきたい
連携：いろんなところでしている。戦略もってやったら
文化：かきまぜつづける。かきまぜるための点・場

有形・無形は
わけて考えては。

■今後のアプローチの方向性（提案）

1）文化財の保存・活用には、行政各部門、地域住民、企業の連携が必要

文化庁認定を起点に、地域文化財の保存と活用は新たな段階に入っている。文化財は当該部門だけじゃなく、都市政策・観光・経済振興・福祉など他部門との連携によってこそ最大の価値を生みだすことができる。また、メディアとの連携や新しい表現手法等（デジタルアーカイブ、聖地巡礼、アニメなど）も視野に入れることで、文化財を基盤とした多様な価値創造が可能となる。資源不足を補うためにも、まずはステークホルダーとの情報共有と連携を進めていくべき。

2）担い手問題の議論について

地域文化を継承する、「担い手」の減少と高齢化は深刻な課題である。エイサーのように、かつて担い手だった青年たちの「居場所」として定義された場所では、担い手の確保が難しくなった現在、エイサー（もしくは行事ごと）の目的と担い手の役割を「再定義」する議論が求められている。「年齢層の拡充」「外部資源の受け入れ」「どうやれば担えるのか」「育てるという視点」といったあらゆる選択肢を否定せず向き合うべき。

3）住民の主体的な関与を目指し、地域文化の持続的な発展を目指す

地域の文化は、地域住民によって「意味」が付与され、支えられている。行政が一方的に維持・活用を主導するのではなく、地域住民が「自分たちのもの」として参加できるプロセスが優先である。住民が文化財を「内発的に守る力」を醸成するには、さぐる・学ぶ・活かす・引き継ぐといったキーワードを意識しながら、文化財と地域の接点となる、拠点づくりや、イベント、体験、ツーリズムなど多様な事業の組み合わせを住民協働によって仕掛けていくべき。

これらの活動が実を結ぶ先には、住民が文化財を「わくわくする」存在として再定義し、文化財を保存・活用、そして育てる住民が出現し、住民による主体的な地域づくりへと昇華されると考える。

■参加者によるサブセッション

うるま市の歴史文化遺産をもっと活用するために必要な連携について考えながら、活用が実現した先の地域のメリットや課題を共有する

（参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載）

①

①行政、②ガイドの会（三線屋）
③ウラソエ観光協会④ヘシキヤ移住者
（宮崎）
（イバラキ）→単身 お一人で

- 沖縄のイチャリバチョーデー
  ゆるい時間
- 三線を習いに、熱心に !!←もっと伝統文化
- 伝統芸能でつながる
- 沖縄の空気感
- ウラソエ市→地元の方と、外から入って
  きた離島出身者との方とであわないところ
  がある
- 舞天さんにも注目を

②

わらしなっと　コンピューター関係　VR とか
やけな出身
32 才　移住→エイサーをやった。
敵視するんが多いのでは？
→人をためす感じ
→内地の人
→地区でのルールが厳しいのでは？

③

- 文化財はむずかしい
- いろいろ発信している
- 観光に頼りすぎると文化崩れる
- 軸はぶらさないけど、常に進化しないと残ら
  ない
- うるま市の元の 4 市町村の特化を活かす。

④

- ナハ泊の方案内、ほぼ市外泊の方多い
- かっちん来た方へ、他スポット・お店案内
  ┗近りん文化財を案内する MAP あたらいいの
  に
  ┗文化財シリーズパンフありすぎてどれおすす
  めするか迷う
- 天願橋は「落ちない橋」としてコートニーの
  中に天顔グスク跡がある
  行政に頼るのではなく、地域が動く、ししま
  いフェスは継続するべき、けいしょうするな
  ら
  ┗道ジュネーで。みせ方で、よりみりょくが伝
  わる。
- 駐車場→2 次交通
  →経済につながるハード

⑤

- 産業（農･漁）を伸ばす
- 観光だけではない
- 産業会社の人たち
- 地域の人たちを集めて
- 持続もできる産業を伸ばす
- 事業を起こす人材
- 戻ってきたくなる地域
- みんなであつまって話しあえる環境
- 滞在型・産品に力を入れる
- PR
- 閉鎖的な考えを変える

⑥

石川地区

・ 収容所で人口増で言葉がなくなった。
・ 足元の大事さ
・ 締め太鼓
・ 戦前からの継承

平敷屋地区

・ エイサー 保存会も高齢化
・ 青年会 100-150→現在 60 名位

☆文化継承が大事

・ 青年エイサーすたれていく
・ 文化継承
・ 次の代、小学生から必要

知花グスク沖縄市

・ 文化財後世に残すべきもの、残さないもの
・ 老人クラブでプロジェクトで知花ガイドブック制作した

└調査に時間がかかる
→今やらないと間に合わない

・ 700 点収容
・ 写真展、600 点を展示
・ 先人の作った物を後世に残す
・ 人間は水がないといきていけない

→川の写真集制作中（老人クラブで）

⑦

・ 地域の文化財周辺の整備不足
・ “活用”の内容のそご―文化財の保護がないがしろになっていないか？
観光に特化しすぎ
・ 保ゴ活動の体験を提供するのは？ex）発掘。
・ 文化の相互貸借
・ 時代にあわせて文化も変化させる必要あり
ex）エイサーの男女の役割をとっぱらう

⑧

仏だんのあるカフェ、宿
→首里にも〇〇とのものがある
→文化の周知になっている

・ 文化財への興味、
・ うるまらしさとは、文化へのほこり、楽しみ方。

(日常)

・ 資源の活用、原点かいきと改良

⑨

・ 文化財活用計画をたててるの→「沖」では「うるま」のみ
・ 文化財→見るのみ×
活用するべき〇
・ 観光と回すのか残すべきか

→バランス→どう人が集まるか
集まれるか

・ 浜比嘉コンクリート
アマミチューのたてもの（拝所）
土台づくり→活用する
市民の声
・ 自然そのもの

⑩

・ 勝連
・ 空家が多い→トートーメーがある。なかなか貸さない
・ 足下の良さに気付かない…
・ 当たり前になりがち…
・ フィルムオフィスの必要性
・ 生まれ島への関心
・ 住人が、良さを感じなくなってる？
・ ハジチ

⑪

・うるま市（文）
・沖縄市（文化ガイド）
〃 （文化財）
・ ブルーシール 収容所
スポットのあたらないところの見える化
↑表示板とかあるといい
地域の人も認識たかまる

・　文化財でも
　3000 件でもまだもっとある
・　資料みると地域にかたよりあるみたい
・　石川、戦後の史跡はみりょくてき
・　行政担当者会ギでは戦後復興期はまだ新しいと言われたが石川独自と考え推した
・東恩納博物館→史跡指定
　建物なくても→史跡指定
・　場所が大事、とでもう
・　指定したあとがむずかしい
・　ダイニングアウトとか、ギャラやスタッフほうしゅうは？
・　経済まわしたいからやってるはずだがやりがいさくしゅにならない？
　↑定舞の人とか。
　伝統文化館とか
　インバウンド向け
　↑上と両刀づかいでは？
・　うるま市は展示ばうちいれる
　（ガイドのふんいきの変化ってある？）世代が若くなってきた
←ガイドもまだ 10 年くらいなのでよくわからない
・　沖縄市の修学旅行のガイド＝まちあるきは人気
・　県では多い
・　地元は身近すぎて良点を見出せてない

歴史文化遺産の保存・活用に関する地域円卓会議
参加者アンケート集計

◆概要

・日時：2025 年 2 月 14 日（金）18:30 - 21:30

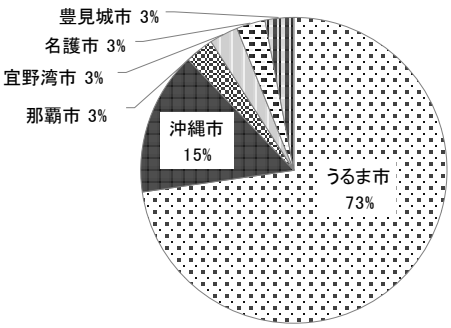
・場所：うるマルシェ会議室 うるま市民食堂 2F

・着席者：8 名（論点提供者、司会、記録者含む）

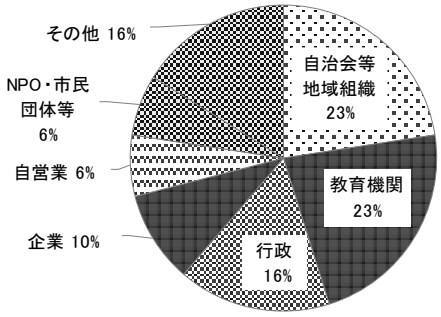
・参加者：79 名（自治会等地域組織、教育機関、行政等）

（アンケート回収 33 名、回収率 42%）

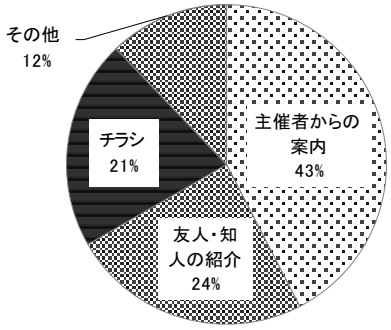
１．どちらから？



２．所属



３．円卓会議はどのように知ったか



４．満足度

平均：4.4（5 点中）

5. 満足	4. 概ね満足	3. 普通	2. あまり満足していない	1. 不満足	未記入
18 名	11 名	2 名	1 名	0 名	1 名

５．満足度の理由

（５．満足）

・ うるま市の文化財の現状がよく分かったこと。色んな視点から様々な話を聞けた。観光に関わる話も多くあったので勉強になりました。星さんのお話を聞けたこと。

・ うるま市の文化財が多くある事に気づき、今後様々な取り組みで地域が活性化できるのだろうと期待できた。私達市民がどのように関わっていけるのか!?改めて考えさせられた。

・ 色々な立場の話を聞け、またそこから広がっていくのが新鮮で面白かったです。

・ それぞれの立場からの文化財の活用の話が聞けてとてもよかった。ソフト面活用＋ハード面活用⇒人＋アイデンティティー→連携、担い手。皆さんのエネルギーをとても感じた。

・ 初めての経験で良い知識と刺激になった。

・ 地域の魅力を再確認できた。

・ いろんな視点を聞くことができたのは良かった。

・ 新しい視点をたくさん教えていただきました。着席者の方々も参加者も熱量がすごいですね。大いに刺激を受けました。

・ いろいろな気づきがありました。

・ 那覇市、沖縄市、浦添市、いろいろなところからいらした方たちの視点で議論する事は良い事だと思いました。

・　このような会議は初めてです！すばらしい！
・　いろいろな話を聞けた事。具体的に経済へ繋げる形など。客観的な視点からの問題点、気づきなど。
・　いろいろな方々の話しが聞けたので。
・　うるま市の取り組みが分かりやすく説明されていた。
・　様々な立場の方の話を聞くことが出来て満足しました。うるま市の現状やこれからを考えていくきっかけになりました。
・　うるま市民となり誇りに思う文化財や普通じゃない地元に気づきがありました。

（４．概ね満足）
・　サブセッションを４人で行ったが、他業種の方々ばかりで色々な視点があり面白かった。
・　「足元の宝物」気づき、良い言葉をきけてよかった。
・　為になる話が聞けた。
・　自分の地域の文化について意識する良い機会になった。
・　いろいろな話が聞けて目からウロコ。（知らないことがあったものですから）
・　うるま市の歴史文化財の存在と保存の取り組みに触れる事が出来、町づくりのイメージが広がりました。
・　多様なパネラーの意見がおもしろかった。

（３．普通）
・　現状を理解することができた。まだまだ課題が多く、具体的な未来を語るにはみんなで考えていく必要があると感じた。
・　一方通行会議。インフラ整備と金の追及は同時にすすむ！

（２．あまり満足しいていない）
・　歴史文化遺産の保存・活用についてのテーマとかけはなれている感じがした。

６．円卓会議で印象に残ったこと
・　星さんの“皆自分のことではなく、いつかのだれかが幸せな姿を想像して話している”これこそが文化財だとの話。フタをしてビンに入れたままではカビる。文化財もそう。島が家で自宅が個々の部屋、食堂がリビング。
・　あごーりば食堂石川氏の島が家でリビングととらえる、とても理想的な自治会（地域）のあり方だと思う。大川氏、足元の宝物、地域を知ることで、地域を愛し活用できる事が多くあると思えた。様々な手法を活用していく事が大切だと感じた。
・　“青年エイサー”の“青年”を抜いてもいいのでは？というアイディアを聞いて「たしかに!!」と目からウロコでした。言われてみれば範囲を最初から小さくしていたなと。
・　「あしもとの宝物を笑顔に」「島のリビングの場所」「気づき」「連携」「地域」「地元」。
・　気付き、連携、フィルムオフィスをぜひ!!ある地域資源を活かしてお金をまわすこともできる。今は市外にお金が落ちている…。
・　勝連グスクでのイベント。
・　足元の宝に気づく、自分の価値に気づく。財はアップデートしていくことで継続。
・　気づき、魅力のすり込み。エイサーの制限を外す。美しい調和。いろんな方法で。移住者でいいな。立場の違いを受け入れる。
・　住んでいる人たちが住んで良い場所だと思えるところであれば、自ずと文化財は守られていくのかと思いました。
・　気づき、連携。
・　プランディングの正しいありかた。（星さん）
・　文化財とは常に up デートする事。足元の宝物と大切にする。
・　人と人のつながりによる連携を自然に流れにまかせる。それは行動を共にする事で楽しく面白くできれば継続の可能性がある。
・　上杉先生の話しが分かりやすく、簡潔で良かった。「舞鶴」の例が興味をそそる内容。

・ 滞在型、勝連城で終わらないものにする。外部の人間と地元の人間でできることの違いがあるという考えが良いなと思いました。
・ 文化財→アップデート!!観光→食文化大事!!
・ たくさん良い話がきけました。文化財と連携をとって宝の文化財をのこしてほしい。
・ 観光に頼りすぎると文化が崩れる。
・ 住んでる人が自分の地域の良さに気づくことが大切である。自分の価値をもう一度見直す。
・ 星さんの国の成長戦略の視点がゆきづまり感のある、これまでの資本主義の文脈の先にある文化財への視点と大きく異なり、素晴らしいと思いました。石川さんの土の香りのするお話しが良かったです。
・ 気づきが無ければ継承しない。
・ 上杉先生の舞鶴の例を詳しく知りたいと思いました。「リビング」の考え方はおもしろかった。
・ スーテーの言葉（地域により意味がちがう）アマミキョウは女ですか？シロミキョウは男ですか？はっきりしない。浜比嘉の女神は愛人です。本妻はヤブチ。
・ 大川さんのエイサーについて大きな違いを感じた。
・ ジャンルを分けて文化財マップ。

７．会議運営に関してのご意見・感想

・ とても有意義な時間でした。ありがとうございました。セッションで、他のグループの方々の内容を聞けたらよかったなと思いました。
・ 円卓会議というコンセプトでしたが、意見のクロスは生まれない流れだったので、時間＝登壇者のお話しの都合上難しいとは思いますが、クロストークも聞きたかったです。
・ 会議運営すばらしかったです。模造紙のまとめもとても良かったです。
・ 大変勉強になりました。今後のうるま市の文化財の活用や地域の取り組みに再度様々な視点から見直し継承していけるよう努力していきたい。貴重な体験をさせていただき感謝致します。
・ とても有意義でした。
・ 第２回もあれば参加したい。
・ どんどん意見、アイデアを聞く場、話し合う場をつくっていくことが大切だと思うので、このような円卓会議を進めて欲しい。
・ 最初の議論の皆様の言葉ともう一度ふりかえりたいのでファイルで読み返したいです。小那覇舞天さんが戦後芸能に果たした役割も大きいと思います。
・ やぶ地のジャネー洞、浜比嘉のアマミチュー、シルミチュー、伊計の中原遺跡、平敷屋のタキノー、勝連城址をつなげて歴史の流れを案内できないか。
・ 会議内容をすぐに記入してまとめる作業に感動しました。
・ 序盤、司会の方の「合いの手」が少し邪魔な所があった。座席、資料は多めに用意しても良いのでは？と思う。
・ 参加者の意見を述べる時間もほしい。
・ 地域の歴史文化についての市民講座の開催を。
・ おもしろい会議運営でした。
・ 長かったです。
・ 体験談の意見は良かった。ヤブサツの神、琉球国王が大切に敬ったヤブチの話しがない？
・ 話し合う時間が少ない。地域の埋もれた文化財を！

（写真）会場の様子

＜サブセッション　記録用紙＞　※編集：参加者名は削除

①行政 ②ガイドの会（三線屋）

③観光協会（ウラソエ） ④移住者（ヘシキヤ）

（宮崎）

（イバラキ）→ 単身

おー人で

もっと伝統文化

- 沖縄のイチャリバ
  やるい時間 チョーデー
- 三線を習いに、熱心に。
- 伝統芸能でつながる。
- 沖縄の空気感
- ウラソエネ → 地元の方と、外から入ってきた離島出身者との方とであわないところがある。
- 舞天さんにも注目を

教育関係

卒業生

わらしまる コミュニティ プログラム VRとか。

でけり出身

32才 移住 → エイサーをやる。

故郷離れが多いのでは？

→ 人を大事感じ

→ 内地の人

地元でのルールが乱れのでは？

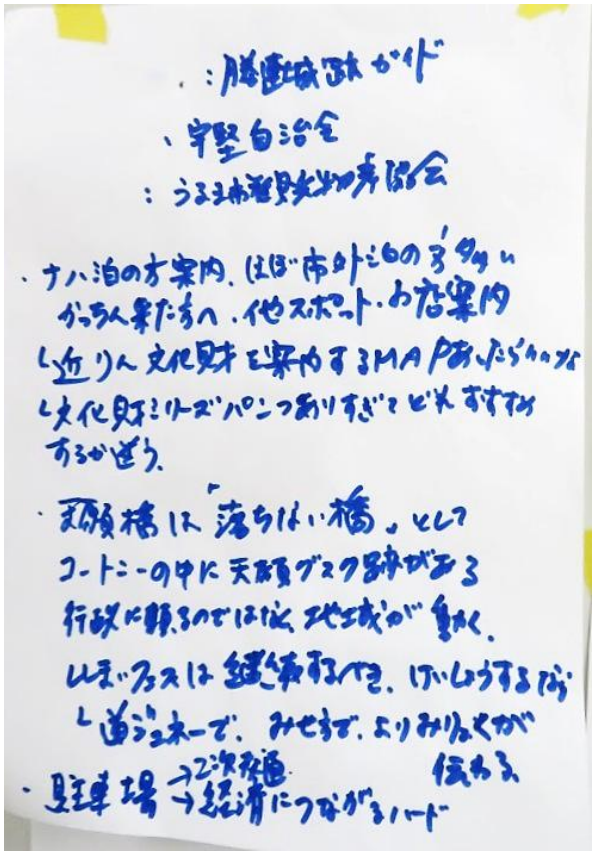
文化財はむずかしい

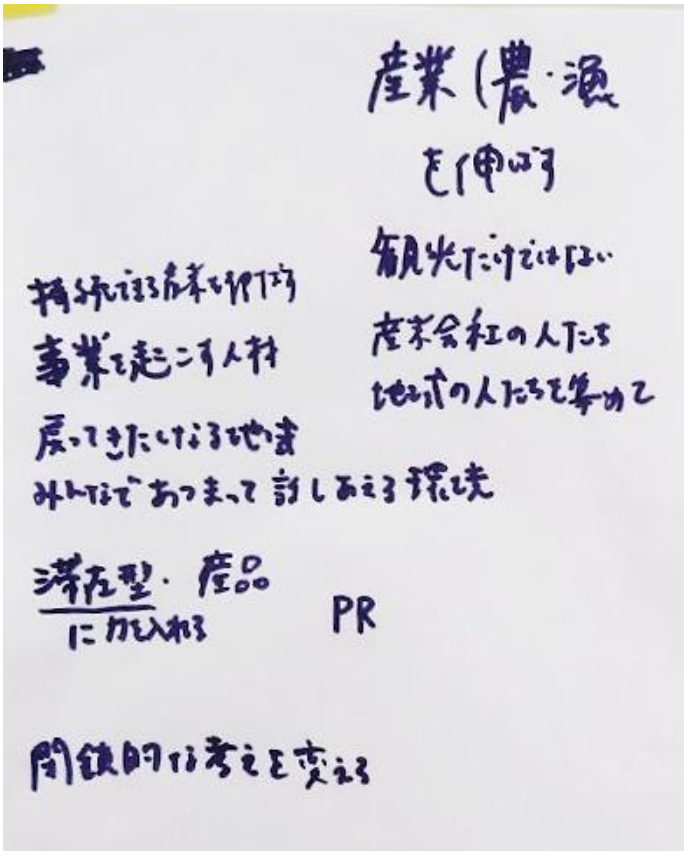
いろいろ発信している

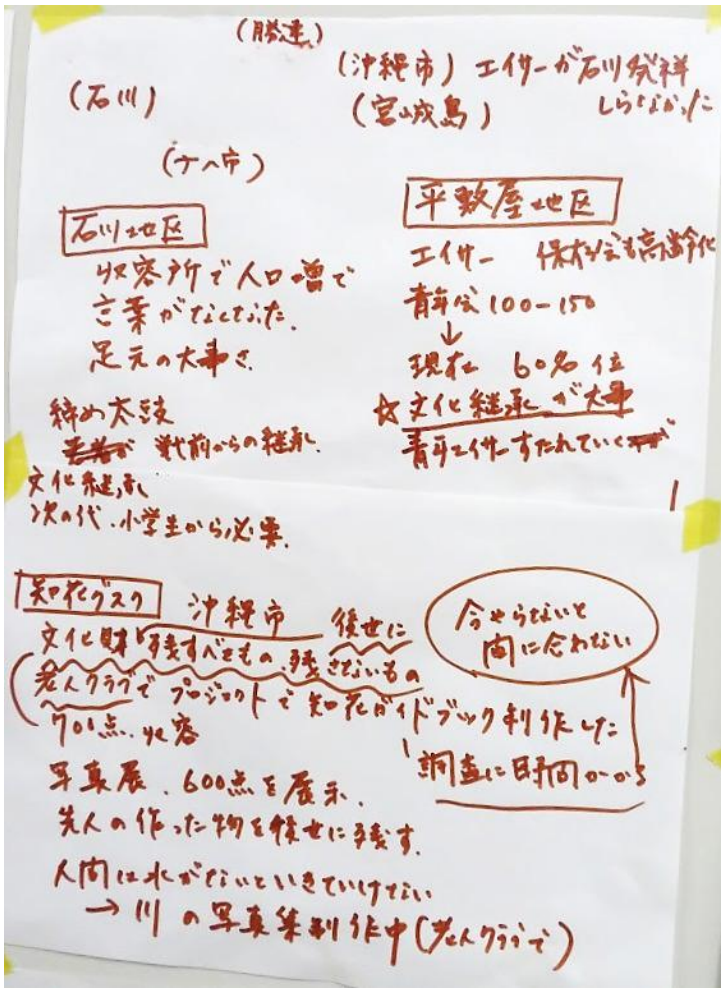
観光協に頼りすぎると文化崩れる

車はぶらさないけど、常に進化しないと残らない

うるおいの元の牛市町村の特化を活かす。


・：勝連城跡ガイド
、宇堅自治会
：うるま市観光物産協会
・ナハ泊の方案内、ほぼ市外に泊の方多い
かつ人集たちへ、他スポット、お店案内
しまりん文化財を案内するMAP作ったらいかが
文化財ミリーズパンつありすぎてどれすすめ
するかぼう。
・天願橋は「落ちない橋」として
コートニーの中に天願ブスク跡がある
行政に頼るのではなく地域が動く。
ムーブスは継続すべき、けいしゅうするなら
道ジェネーで、みせるで、よりみりょくが
伝わる
・駐車場 →二次交通
→経済につながるハード


産業（農・漁
を伸ばす
観光だけではない
産業会社の人たち
地域の人たちを集めて
持続できる産業を作ろう
事業を起こす人材
戻ってきたくなる地域
みんなであつまって話しあえる環境
滞在型・産品
に力を入れる
PR
閉鎖的な考えを変える


（勝連）
（沖縄市）エイサーが石川伝承
しらなかった
（石川）
（宮城島）
（ナハ市）
石川地区
収容所で人口増で
言葉がなくなった。
足元の大事さ。
締め太鼓
戦前からの継承。
文化継承
次の代、小学生から必要。
平敷屋地区
エイサー 保存会も高齢化
青年会100-150
↓
現在 60名位
☆文化継承が大事
青年エイサーすたれていくが
知花グスク 沖縄市
文化財 残すべきもの、残さないもの
後世に
老人クラブでプロジェクトで知花ガイドブック制作した
700点、収容
写真展、600点を展示。
先人の作った物を後世に残す。
人間は水がないといきていけない
→川の写真集制作中（老人クラブで）
今やらないと
間に合わない
調査に時間かかる

・地域の文化財周辺の整備不足

・"活用"の内容のそこ－文化財の保護がないがしろになっていないか？
観光に特化しすぎ"

・保ゴ活動の体験を提供するのは？ ex)発掘.

・文化の相互貸借

・時代にあわせて文化も変化させる必要あり. ex) エイサーの男女の役割をとっぱらう

文化財活用計画をたてるのは沖ではうるさい

文化財→見るのみ×
活用するべき○

観光と保存
破壊しないか } バランス→どうしたら共存できる
共存できるか

★ 城址祭 つくりー
アスミチューの立てものの(特所)
・土台づくり → 活用する
市民の方

★ 自然そのもの.

仏じゃんの五月カフェ.海.
文化財への興味
首里にも戦化のものがある
文化の回収になっている

うるまらしさとは.
文化へのはこり.楽しみ方.
(日常)
資源の活用.良さ.いいことを改良

勝連

空家が多い → トートーメーがある
なかなか貸さない.

足下の良さに気付かない…
当たり前になりがち…

・フィルムオフィスの必要性
・生まれ島への関心
・住人が.良さを感じなくなってる?
・ハジチ

2015.2.14. ワークショップ
・うるま市.(名)
沖縄市.
(文化ガイド)
〃 文化財.ロ
〃

ルーシー.収容所
スポットのあたらなどころの
見える化.
↑表示板とかあるといい
地域の人も発見しを
たのしめる

文化財で
3000ぐらい.まだそっと
ある.
資料みると.
地域にかたよりある感じ.

石川.戦後の史跡は
みりょくてき.

行政担当者全ぶ
戦後.復興.朝鮮.
新しいと言われたが.
石川.北谷と数と推した.

・東恩納博物館→文化財指定
連絡ちょうだい→
場所が大事.どこでも

2

指定したあとがおもしろい
自分ら.アラハとか.おうち
マタッたらしゅうに?
経済まわしたいなら.てるにすぎが
やりがい.生くしんちゅ?
↑演舞の人を入れ
伝統文化館とか
インバウンド対応
上と.
両方ってい?
うるま市は.展示がちいさい.
(ガイドのふんい気の違い?)
ガイドもまだ10年くらいしかの
よくわからない
沖縄市の修学旅行.ガイドの人数.
県外多い.
地元は厳しすぎて.良さを見出だせない

3